

58 安全管理

工事現場における来庁者への安全対策

(一社) 北海道土木施工管理技士会
株式会社 富士サルベージ
小野 裕哉

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：美原地区路線バス乗降場整備工事
- (2) 発注者：北海道函館市土木部道路建設課
- (3) 工事場所：函館市美原町
- (4) 工期：令和2年6月10日～
令和3年3月25日

2. 現場における問題点

当工事は、函館市亀田支所の既設駐車場を取壊し、これまで4ヵ所に点在していたバス停を集約し、乗り換えの利便性を高めるための、路線バス乗降場の建設工事である。また、将来的には同乗降所とその周辺地域とを結ぶ新路線の展開するゾーンバスシステムを導入する考えであり、その先駆けとなる工事であった。支所の敷地内での工事となるため平日は、数多くの来庁者が行き来し、市営住宅も併設されているため第三者に対する安全対策を十分行う必要があった。

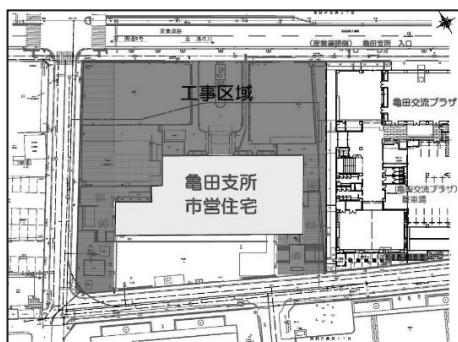


図-1 工事区域

3. 工夫・改善点と適用結果

工事着手前には、市営住宅の方達に工事のお知らせを配布し、十分な理解を持ってもらえる様に努めた。施工開始時は既設駐車場の半分を取壊し、もう半分を来庁者の駐車場とするために、駐車場入り口には誘導員を常時配備し駐車場を案内することと、今後駐車場が使用できなくなる事を説明するよう教育を行った。歩道部には複数の案内板や支所入口を示す電光掲示板を設置し、第三者の立入防止に努めた。駐車場取壊し完了後の来庁者の駐車場は、隣接施設となり工事完了後もその施設の駐車場が来庁者の駐車場となるため、工事完了後の駐車場案内も掲示し周知を行った。



図-2 案内看板・電光掲示板

現場外周には、工事柵を設置していたため車で来庁する方の多くは、駐車場や支所入口を見通すことができなく、また来庁者の多くは工事期間中に初めて来庁する方が多いため入口に迷うと予想し、現場出入口又は支所通路となる場所には常備

誘導員を配置し、工事柵には引き続き支所・駐車場を示した案内板や電光掲示板を設置した。施工箇所により来庁者の仮設通路を変更せざるを得ない時は、変更の掲示物と誘導員によって案内を行った。施工中はすぐ横を来庁者が歩行する場面においては、誘導員の合図により施工を中断し第三者の安全を第一にした施工を行った。

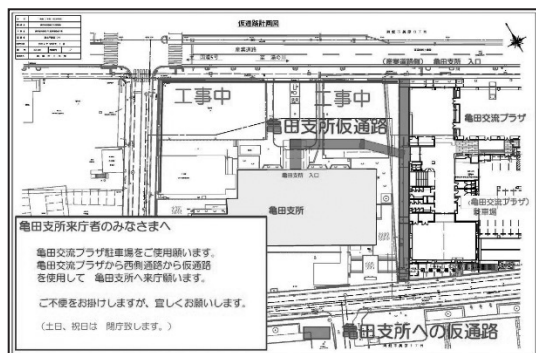


図-3 支所案内掲示物

また当工事の他に支所敷地内に庇工事・倉庫解体工事・エレベーター工事と支所周辺の路線バス走行の為の道路拡幅工事と多数の現場があり、当工事はその統括工事だった。そのため来庁者の仮設通路や誘導員の配置場所等を他現場の進捗を確認しながら、来庁者に対する安全対策について入念に打合せを行い、他現場誘導員の来庁者に対する駐車場案内等の教育も行い、第三者の現場立入防止対策に努めた。

支所に来庁する方の中には、年配の方や車いすの方、子供連れの方など様々な方が来庁するため足元の悪い仮設通路は仮舗装を行い、なるべく傾斜の少ない通路を心掛けた。また、作業の工程上仮舗装ができない場合は、敷砂を敷均しその上にゴムマットを設置し凹凸の少ない仮設通路を整備した。取り壊しの際に駐輪場も取り壊したため、仮設通路脇に自転車を止められるスペースを確保し自転車で来庁する方にも不便なく使用できる様にした。



図-4 仮舗装による仮設通路

冬期期間中は来庁者の転倒防止のために支所開庁前や積雪の状況を確認し、仮設通路と市営住宅者の通路の除雪や融雪剤の散布を行い、歩行しやすい環境の整備を行った。

また工事に対する興味や理解を持って頂ける様に歩道側工事柵には、工事完成予想図や函館市の景色を厳選した看板を掲示しイメージアップに努めた。現場事務所前にはウポポイや縄文土器に関する看板を掲示することで北海道全体にも興味を持って頂けるように設置した。

4. おわりに

工事着工前は、第三者の仮設通路に近い作業や苦情などの不安もあったが、工事従事者全員に第三者の安全確保について周知教育を行い安全第一で作業をしたことで、第三者との接触事故や苦情等もなく、工事としても無事故無災害で完了することができた。

発注者や亀田支所代表者からも日頃から第三者の安全を優先した作業のおかげで苦情もなく終えることができたと感謝された。また他現場との綿密な打ち合わせを行ったことで、亀田支所の各工事でも第三者との接触災害等を防ぐことができた。

安全に対する意識は、元請だけでなく各協力会社、作業従事者、発注者等全員が「安全第一」を心掛けることで工事としての安全、また地域の安全・安心に繋がると改めて感じた。